



長く応援業者として中村電設株式会社に関わったのち、2021年に会社の仲間入りを果たした山本篤司。これまで身につけた知識と経験をもとに活躍している山本は、仕事をするうえでどのようなポイントを意識しているのか。加えて、今後の目標についても話を聞いた。

### 一人親方を経て

前職、個人事業主として技術を磨いていた山本は、あるとき一人で全ての業務を担当することに限界を感じるようになった。そこで以前から応援業者として関わりのあった中村電設にスカウトされていたこともあり、一人親方の立場から退く決断を下したのである。

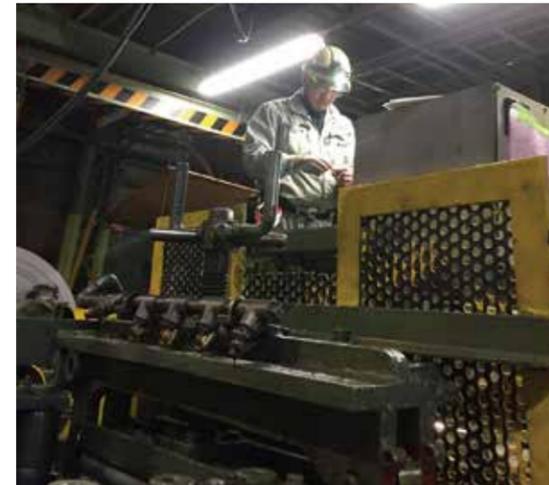
現在堺作業所に所属している山本が担当している主な案件は、プラント工事だ。これまで現場における有意義な経験を多数積んできた一方、プラ

ント工事はより専門的な技術が求められ、大変さを感じる場面がある。それでもチャレンジだからこそ、モチベーションも上がる。自分自身のスキルを活かして会社や社会に貢献する毎日は、いつも新鮮な喜びに満ちているのだ。

### 高品質の仕事を目指して

仕事をするなかで最も大切にしているのは、工事の質の高さだ。当たり前のことではあるが、依頼主の要望を全うできなければ、信頼は得られない。個人事業主として業界の厳しさや難しさを身に染みて経験してきた山本だからこそ、丁寧に一つひとつの作業と向き合っている。

「かつて、照明をつける機械を落下させ、破損させてしまった苦い経験をしたことがあります。そのため、以降は周囲の確認や繊細な心がけを怠らないようにしています」。



失敗を悔いているからこそ、小さなミスも許さない気構えで、ケーブルのルート一つであってもきれいに通すよう心がけているのだ。

加えて、高品質を目指す姿勢がより強くなったのは、中村電設入社後のことだという。仲間の仕事を肌で感じ、協力し合って働くなかで、気づかされる点は数多い。今後も美しい仕事を目指し、進み続けていけたらと考えている。

### 若手とのコミュニケーションから得るもの

現場では、積極的にコミュニケーションを取る。5～6名で担当する工事が多く、やはり人間関係の構築は重要だと考えるからだ。そのなかでも特に若手社員とのやり取りには気を遣う。会話はなるべく若者に合わせ、友達感覚で話しかけられるよう意識し、仕事についてだけではなく、些細な世間話などから相手との距離を縮めている。

若いパワーに触れることは、自身にいい影響を及ぼしている。技術への真摯な気持ちを思い起こさせてくれるだけでなく、後輩への指導や育成について学ぶ機会を得られるからだ。

「人から指示されてから動くのではなく、自分で考えて行動できれば今よりさらに成長できると思います。自主的に仕事をして、ぜひ成長してもらいたいと思いますね」。

今後は、人材育成についても自身の力を発揮していきたいと考える山本。年齢の差を越えて互いにいい影響を与え合う関係性を大切にしていきたいとの思いを抱いている。

### キャンプでリフレッシュ

プライベートにおける楽しみは、キャンプだと話す山本。連休などには職場の数名で和歌山県か奈良県のキャンプ場に足を運び、爽やかな空気を吸い、たき火や自炊の料理、お酒を楽しみながら様々な話をする。自然の多い場所にいると、心身ともにリフレッシュできる。心からリラックスし、疲れやストレスを発散することで、仕事への活力も生まれるため、大自然のなかで息抜きをする時間は、自身にとって貴重な癒やしとなっている。

### 電気工事士としてのスキルを上げながら

現在、第一種電気工事士の資格取得に向けて勉強を進めており、合格すれば、これまでできなかった難しい作業も可能だ。さらに、より専門的な立場へとステップアップできる。忙しい毎日のなかで勉強時間を捻出するのはなかなか難しいが、帰宅後30分は必ず勉強するよう意識し、奮闘中だ。

いずれは高圧電気に関する資格も取得したいと考えている山本は、自身のスキルアップに向けての意欲は旺盛で、作業責任者を任せてもらえるような技術力と人間性を得るため、努力を続けていく覚悟だ。

躍進を続ける山本は、これからも会社の発展に貢献していくに違いない。





なかむら まもる  
中村 守さん

# きでも印象に残る現場紹介

皆さんの記憶の中にも「忘れられない現場」があるのではないのでしょうか。今回は中村さんに印象深い現場についてうかがいました。とにかく大変だったと語る中村さん。その苦勞の先にどのような学びがあったのか……当時のエピソードと共にお届けします！

## 印象に残っている現場

### 愛知県にある東京製鐵の工場への長期出張

一番大変だった！とすぐに思い出される現場です。2009年8月31日から約3か月間の長期にわたり作業が必要な業務でした。基本的には4～5名が常時作業を行っていましたが、日にち限定で手伝いに来てもらうことも。普段は生産ラインの一部分の改造や更新を担当することが多いのですが、今回の依頼は更地の状態から全てを作り上げることで、非常に規模が大きい現場でした。

## 印象に残っている理由

### 一番の苦勞はローカルルールに沿った作業

規模が大きいことによる大変さもありましたが、何よりも大変だったことは依頼主がもつ独自のルールを守りながら作業を進めなければならなかったことでした。通常の3～4倍の時間がかかってしまうという状況で、家に帰ることができない毎日。子どもが幼い時期でしたが育児に参加することができず、家族にも苦勞をかけてしまいました。振り返ってみると良い経験だったなと感じますが、当時は「二度とやりたくない！」と思うほど大変な現場でした。



## この経験から得た学び

### 大規模の現場で効率的に作業を進めるコツを習得

この現場を経験したことで、大規模な作業が必要な際「何から始めてどのように進めていくのか」という工程の要領を得ることができたと実感。そして、効率良く作業を進めるには適切な人材を適切な人数で配置することも重要であると学びました。私がリーダーとして入った次の現場では「私が休んでしまったら現場が回らない」ということがないよう、サブリーダーを配置。スムーズに作業を進めることができました。また、ただ人数を確保するだけでなく、応援で入ってくれる方一人ひとりのスキルをしっかりと見極め、人員配置をすることが上に立つ人間としての役割です。今後もこの学びを活かしていきたいと思っています。

## 今後の目標

### 慣れから生じるミスを防ぐ！

これからの目標はとにかくミスをしないこと。どうしても慣れた作業では細かいところを省略したり、確認を怠ったりしてしまいがちです。小さなミスが大きなトラブルに繋がる可能性があるため、どのようなときも気を引き締めて業務にあたりたいと思います。



## 社長からの

# 激励メッセージ

### ～第3弾～

社長からいただいた社員の皆さんへのメッセージをお届け！今回は3名の方へ、スペシャルなメッセージをお送りします。

質問事項 ①特に優れているところ ②激励のメッセージ

### 金尾知美さんへ

①経験も長く、一通りの作業ができる方です。非常に慎重な性格により、仕事そのものを完璧にこなしてくれます。  
②盤改造の知識と技能を身につけてもらえると仕事の幅がより広がるので、頑張ってもらっています。後輩との仕事はしっかりと教えてあげ、自分で行ったほうが早いという思いはぐっとこらえて、後輩に多くの経験をさせてあげてください。また、自分の仕事に自信を持てれば、もう言うことはありません。

### 出来田泰二さんへ

①当社の仕事はほぼ全てこなすことができる職人。数々の現場を安全、品質面で問題なく完工してきてくれます。私も若い人の話や仕事での問題点を話し合うことができる、頼れる存在です。  
②日鉄となり、色々なルールがあると思いますが、今後はそれらを徐々に覚えていってもらい、より安全な作業の継続をお願いします。

### 赤井和幸さんへ

①赤井さんも、当社の仕事はほぼ全てしっかりとこなせる職人です。昔はせっかちなところが目立っていましたが、最近は慎重に確実にといったところを大きく意識できるようになったと思います。また、安全面には妥協がなく、作業している姿を安心して見ていられます。  
②2024、2025年と忙しくなることが予想されています。これからも頼ることが多くなると思いますが、よろしくお願ひします。またあわせて、若手の育成にも力を入れていきましょう。

# ようこそ！趣味の世界

皆さんの大好きな趣味をご紹介いただくこちらのコーナー。今回はキャンプがお好きだという、池田さんにご登場いただきます。会社のキャンプ仲間と楽しむソログルキャンの魅力や、真冬のキャンプの醍醐味とは……？



## 私の趣味 キャンプ

いけだ あつし  
池田 篤史さん

## おすすめのポイント

キャンプはそのときどきで、違った場所に行きます。キャンプ場までの道すがら、温泉など、行きたい場所の目星をつけておき、後で向かうのも楽しみの一つ。これまで多くの場所を訪れましたが、奈良が一番行きやすいのでよく行っています。奈良では天川村や谷瀬の吊り橋が印象的でした。キャンプに行く時期としては、春や秋などのベストシーズンのほか、真冬に行くことも、焚き火をして温まったり、コーヒーを淹れて飲んだりすることが冬のキャンプの醍醐味です。自分のペースでできて、自然の中でゆっくりくつろげるのがキャンプの良さだと思います。

## 好きになったきっかけ

若い頃からバーベキューをするのが好きだったということもあり、道具が自然と増えていきました。結婚してからは、子どもたちにもキャンプのおもしろさを味わってもらいたいと思い、本格的にキャンプを開始。子どもたちが大きくなり、今ではあまり一緒に行くことがなくなった代わりに、会社のキャンプ仲間と3人で行くようになりました。現地には一緒にいきますが、行った先ではテントを別で張って、各々好きなように過ごす、ソログルキャンを楽しんでいます。



## 皆さんへのメッセージ

いつか北海道から鹿児島までのキャンプ場を制覇してみたいと思っています。例えば夏の北海道から始めて、涼しくなると同時に徐々に車で南に下っていく……。普段の慌ただしい生活から離れて、ほっと一息くつろげる空間を作れるのがキャンプの魅力です。皆さんもぜひ始めてみてはいかがでしょうか？